土佐熱。に關する研究(第一報)(承前

高知市 下 村 次

男

第四章 恢復期患者血清の既知「レプトスピラ」に對する反應に就て

興味ある成績を得たるを以つて弦に報告せんご欲するものなり。 定の要ありこ信じ今囘東京帝國大學傳染病硏究所に於て高木逸磨敎授の御指導を辱うし本症恢復期患者血淸と旣知 氏等の實驗後十數年を經過し其間二、三「レプト」の株も發見せられたりしかば茲に本症の恢復期血清に就て再試決 ることあるは甚だ興味多き所にして且つ本症恢復期患者血清が「レプト」病の何れの病原に反應を呈するや否や井戸 際本症流行地にありて永年多數の患者を親しく診療するに極めて屢;不全型ワイル氏病と誤認し易き例症に遭遇す ワイル してより學界の興味を引き「レプト」を病原と推定しての研究盛なりしも未だ病原體の發見報告には接せず然かも實 るこさ等に 始まりしものならんも 先年井戸氏等が土佐の 秋熱患者の 血清が七日熱病原「レプト」に反應ありさ報告 症が「レプトスピラ」病(以下「レプト」と略稱す)の一種なるべしと考へらるゝに到りたるは本症の臨牀所見に不全型 本症は前章に於て記述せる如く疫學的並びに臨牀學的見知より全く獨立せる病原不明の熱性疾患と考へらるゝも本 「レプト」(ワイル、秋疫A型、 氏病に近似せる病型を呈する場合あること、及び流行地域が「レプト」病流行地域と殆んど同一區域に存在す 七日熱、「レプト」及び水「レプト」、「フォブリーリス」) との発疫反應を 檢しいさゝか

イフェル氏反應に依る實驗

5 プト 氏反應に最も重要なる役割を演じ其結果を左右する所の 」の種屬決定叉は病原確定に海猽を用ひてバ氏反應を行ひ其結果の確實なることは旣に知られ 使用菌株の毒力一定及强毒力を有する菌の 12 る所 採取と言 なりと

下村=『土佐熱』に關する研究

績擧らざるを常とし遂にはその結果に誤りを生ずることあり然かも七日熱「レプト」の如き弱毒にして感染力なきも 猽も幼弱感受性强きを用ひざるべからず、從つて感染致死迄の觀察を要する日數內に自然斃死するもの續出して成 ふ事に關しては「レプト」を用ひる場合に於ては甚だ困難に屬する點にして卽ち「レプト」屬は毒力移動し易く使用海 る方法を取るものです。 はバ氏反應原法に依る判定は不能なり從つて此場合は腹腔液内に於て「レプト」の生存日敷消長等を論じて決定す

得る方法を行ひたり。 運動狀態等を時間的に觀察して後其心血を培養し此の成績を加へて本反應の判定を二十四時間を以つて終了せしめ 依りて余はワイル氏病「レプト」の 如き比較的强毒なる「レプト」を用ふる場合に於ても腹腔液内の「レプト 消

ウス」を用ひてパ氏反應を行ふ場合

擧ぐることは旣に新家氏の實驗によりて明にせられたる所にして余も亦同氏の方法をその儘應用して行ひ興味多き 陽性の差强く發現し判定不明の(土)に屬するものゝ出現は稀れなり。 ウス」は海猽に比して「レプト」屬には感受性弱し從つて腹腔内の殺「レプト」素も多く含有せらるゝ筈にして陰性 本法の海猽を用ふる場合より優秀なる成績を

以上二つの溶菌現象を應用し土作熱恢復期患者血清を檢査せる他リー ケンベルグ氏反應をも試み三者を一括して結

論を得んさしたり。

結果を得たり。

イフェ ル氏反應

海猽を用ひる場合

從來行はれたる術式を其儘應用せり、 即ち生理的食鹽水を以つて五倍、 十倍に稀釋せる 患者血清 一・〇竓に

• ○ 竓を加へてよく混和し之を海猽腹腔内に注入す、 對照は免疫血清又はワイル氏病患者血清を同樣に稀釋し一・○

竓に菌液一・○竓を加へたるものを注入す。

斯くして注入後三十分、 し暗視野裝置の下に「レプト」の有無及運動狀態を觀察し、 時間、 一時間半、 二時間、 六時間、 更に其海猽の心血を六時間 二十四時間にして硝子毛細管を以つて 二十四時間の二囘に亙り採 腹腔液を採 取

「マウス」を用ひたる場合

血して培養したり

患者血清を稀釋し其○・二竓に菌液○・二竓を加へたるものを注入す 十倍に稀釋し○•二竓に菌液○•二竓を加へてよく混和し之を腹腔内に注入す。 新家氏より親しく教を乞ふて實施す、 卽ち患者血清は海猽に使用したるものと同樣に生理的食鹽水を以つて五倍 對照は同樣免疫血清又は

斯くして海猽を使用したる場合と同樣に時間的に腹腔液を採取し暗視野裝置の下に檢査を行ひたり。

二、リーケンベルグ氏帶荷現象

井上氏法に依る

非働 原液さなし之を生理的食鹽水を以つて四倍に稀釋せしもの 補體液は體重三百兎內外の海猽を早期空腹時に心臟穿刺により採血し二十四時間氷室に放置後析出せる血淸を補 被檢血清は何れも昭和九年土佐熱と診斷したる患者の恢復期血清にして之れを攝氏五十六度に三十分間作用せしめ るワイル 性
こなし 秋疫A型、 生理 的食鹽水を以つて遞減的に稀釋せるもの、 七日熱「レプト」を使用時福島培地に移植し四十八時間にして無數に發育し活潑なるもの 使用し プト」液は數年來傳研ワイ iv 室に保存せられた

り右 血 小板液は海猽の心臓血液に二%枸櫞酸曹達 四 種の材料を各一 白金耳宛取りて清淨なる「オ 加生理的食鹽水の四分一量を混じたる「チト ブ 工 クト」硝子上に 混和し 直に「デッキ」硝子にて 覆ひ 其周圍 ラート ブルート」を用ひた

下村=『土佐熱』に關する研究

55

下村=『土佐熱』に關する研究

「ステァリン」蠟燭にて封鎖し室溫に放置して三十分後及一時間後の二囘に之を暗視野裝置にて檢査せり。

五〇六

以上三方法に依る免疫反應は左表の如き結果となれり(「フェブリーリス」、水中「レプト」に於ても同樣實驗を行なひ

使用病原の毒力

第一、ワイル氏病「レプト」さの關係に就てしる全く反應なかりしかば之れを省略す)。

四十八時間培養し其○•五竓を體重二○○乃至二五○瓦の海猽の腹腔に注入するに例外なしに七、八日に發黄し九乃 使用「レプト」は患者株にして敷年來傳研ワイル室に保存せられたるものなり使用時福嶋培養基に移植し三十五度に 一〇日には斃死せしむる毒力を有す。

「マウス」に對しては同じ培養を○•三竓腹腔内に注入すれば四乃至五日間は確實に存在し輕度の發黃を 見るも 罹威

斃死することなき程度のものなり。 此のワイル「レプト」さ土佐熱恢復期患者血淸一○例さの各種反應は別表の如く海猽使用の場合も「マウス」使用の

第二、秋疫A型「レプト」との關係に就て

合も共に全く陰性なるを認めたり。

使用病原の毒力

きたるもの○•五竓を體重二○○乃至二五○瓦の海猽の腹腔内に接種すれば八乃至九日に發貰するも 斃死に 到らず 使用病原は佐藤氏に依り大分縣野津原町にて分離されたるものにして福島氏培地に培養し三十五度に四十八時間置

して治癒するもの有りと言ふ程度なり。

(表中卅卄十は「レプト」の生存及運動等を示し即ちパ氏反應陰性を意味せり) ス」に對しては同じ純培養○•三竓の注入によりその腹腔液内に三日は必ず存在すれ共發黄することなかりき。

第 一 表 <u>ワイル「</u>レプト」 <u>パイフェル</u>氏反應 (海獏)

4 4- th	**	क्रम	nha		腹	腔泊	亥 所	見		心血	培養	結果
患者名	稀	釋	度	30	1 時	1.30時	2 時	6 時	24時	6 時間	24 時間) 1
	5×1	0cc + V1	L.Occ	+++	##	+++	+++	+++	+++	+	+	陰性
	10×1	0cc + V	1.0cc	##	###	+++	+++	+++	+++			127 1-14
	5×1	0cc + V	1.0cc	##	###	.+++	##	+++	+++	+	+	陰性
	10×1	0cc + V	1.0cc	##	##	+++	##	##	+++			127].1.
	5×1	0cc + V	1.0cc	##	111	†††	##	H+	+++	+	+	陰性
	10×1	0cc + V	1.0cc	111	+++	111	₩	+++	+++	ļ		12 11
	5×1	0cc + V	1.0cc	H	+++	+++	###	##	+++	+	+	陰性
ST.	10×1	0cc + V	1.0cc	##	+++	+++	+++	##	##			1五1工
	5×1	0cc + V	1.0cc	##	ĦŦ	+++	+++	##	###	+	+	陰性
	10×1	0cc + V	1.0cc	+++	H	##	+++	+++	##			一二
	5×1	0cc + V	1.0cc	+++	##	111	+++	+++	+++	+	+	陰性
	10×1	.0cc + V	1.0cc	+++	+++	##	##	##	+++			EX LL
	5×1	0cc + V	1.0cc	Ħ	+++	HH	+++	##	+++	+	+	陰性
	10×1	.0cc + V	1.0cc	+++	+++	111	+++	##	##	'	<u>'</u>	127, 1-1.
	5×1	.0cc + V	1.0cc	HH	+++	†††	+++	##	##	+	+	陰性
İ	10×1	0cc + V	1.0cc	+++	Ħ	+++	##	##	##	l .		LE IT
	5×1	.0cc + V	1.0cc	##	##	111	##	##	##	+	+	陰性
	10×1	.0cc + V	1.0cc	##	##	+++	† 	##	+++		'	LEX IT
	5×1	$\overline{.0cc + V}$	1.0cc	Ħ	H	##	+++	##	111	+	+	陰性
	10×1	.0cc + V	1.0cc	##	##	+++	+++	HH.	+++	11 '		ILK IT
ワイル	5×1	.0cc + V	1.0cc	_		-	_	_			_	陽性
患者血清	10×1	.0cc + V	1.0cc		_	_			_	.		
ワイル		0cc + V	1.0cc	_	_	_	_				_	陽性
免疫血清	10×1	.0cc + V	1.0cc	-		_		<u> </u>				100

第 二 表 <u>ワイル「レプト」 パイフェル</u>氏反應 「マウス」

H1 .44 .54	×	釋	не		腹	腔液	€ 所	見		結果
患者名	稀	梓	度	30	1時	1.30時	2時	6時	24時	THE ACT
	5×0	0.2cc + V).2cc	+++	+++	+++	Ħ	Ħ	++	陰性
	10×0	0.2cc + V).2cc	+++	##	+++	+++	H	++	云江
	5×0	0.2cc + V).2cc	##	+++	+++	111	111	++	陰性
	10×0	0.2cc + V).2cc	##	##	##	##	+++	++	云江
	5×0	0.2cc + V).2cc	+++	##	+++	+++	+++	++	陰性
	10×0	0.2cc + V).2cc	##	+++	##	+++	† 	++	
	5×0	0.2cc + V).2cc	##	 	##	ttt	+++	++	陰性
	10×0	0.2cc + V	0.2cc	##	HH	111	III	+++	++	一

	1			-			,		-,,
		$5\times0.2cc+V0.2cc$	##	+++	###	##	+++	++	- 陰性
		$10\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	##	+++	##	##	##	++	一层注
		$5\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	###	+++	###	+++	##	++	E4.44
		$10\times0.2\text{cc}+\text{V}0.2\text{cc}$	111	##	##	+++	III	++	陰性
		$5\times0.2cc+V0.2cc$	##	##	##	+++	+++	++	PA Jul.
		$10\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	##	+++	+++	111	111	++	陰性
		$5\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	+++	##	+++	111	+++	++	PA Ad.
		$10 \times 0.2 \text{cc} + \text{V}0.2 \text{cc}$	##	##	##	HH	111	++	陰性
		$5\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	##	+++	111	+++	 	++	70 M
		10×0.2 cc + $V0.2$ cc	##	† 	##	H	##	++	陰性
		$5\times0.2\text{cc}+\text{V}0.2\text{cc}$	Ħ	HH	##	+++	##	++	PA M
		10×0.2 cc $+$ V 0.2 cc	+++	##	+++	+++	##	++	陰性
對	ワイル	$5\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	_	_		_	-	- T	IZEL SEL
	患者血清	$10 \times 0.2 \text{cc} + \text{V}0.2 \text{cc}$		-	_			_	陽性
	ワイル	$5\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	_	_	_		_	_	20 44
照	免疫血清	$10\times0.2\text{cc}+\text{V}0.2\text{cc}$			_				陽性

第 三 表 秋疫A型 パイフェル氏反應 (海獏)

患者名	稀釋	度		腹	腔液	友 所	見		心血	培養	
心日和	77P 17F	及	30	1時	1.30時	2 時	6 時	24時	6時間	24 時間	結果
	5×1.0 cc +	V1.0cc	+	+	土		_		-	_	. 3
	$5\times1.0cc+$	V1.0cc	##	+	+,	+	+	+	+	+	陰性
	$5\times1.0cc+$	V1.0cc	##	+	+	+	+	+	+	+	陰性
	$5\times1.0\text{cc}$ +	V1.0cc	+++	·	+ ;	+	±		+		3
	$5 \times 1.0 \text{cc} +$	V1.0cc	111	++	++	++	+	+	+	+	陰性
	5×1.0 cc+	V1.0cc	+	+	+	+	+	+	+	+	陰性
	5×1.0cc+	V1.0cc	+	+	+	+	+	+	+	+	陰性
	$5\times1.0cc+$	V1.0cc	+	+	+	士	±		_		?
	5×1.0cc+	V1.0cc	+	+	+	+	+	+	+	+	陰性
	5×1.0cc+	V1.0cc	+	+	+	+	+	+	+	+	陰性
免疫血清	$5 \times 1.0 \text{cc} +$	V1.0cc			1 - 1	~~			I —	THE RESERVE	陽性

第三、七日熱「レプト」と の關係に就て 使用「レプト」は大分縣下 に於て佐藤氏の分離した るものを傳研ワイル室に に於て佐藤氏の分離した るものを傳研ワイル室に で分離當初はよく幼弱海 で分離當初はよく幼弱海 により弱く黄疸を起し四 により弱く黄疸を起し四 により弱く黄疸を起し四 により弱く黄疸を起し四 により弱く黄疸を起し四 ○例ごの発疫反應を見る土佐熱恢復期患者血淸一此の秋疫A型「レプト」さ

に別表の如し。

五〇八

第 四 表 秋疫A型 パ<u>イフェル</u>氏反應 「マウス」

ĺ	th de to	**	App.	Lifet		腹	腔液	发 所	見		結果
	患者名	稀	釋	度	30	1時	1.30時	2時	6時	24時	MIX
		5×0).2cc+	V0.2cc	+++	##	+++	H	+++	/	陰性
		10×0).2cc+	V0.2cc	+++	##	† 	##	++		一大工
		5×0).2cc+	V0.2cc	++	++	++	++	++	/	陰性
		10×0).2cc+	V0.2cc	+++	++	++	++	++		一大工
- National		5×0).2cc+	V0.2cc	++	++	++	++	++	/	陰性
PHE 14 CHAPTER		10×0	0.2cc+	V0.2cc	++	++	++	++	++		LEC 1-T
Ì		5×0	0.2cc+	V0.2cc	++	++	++	++	++	/	陰性
		10×0	0.2cc+	V0.2cc	++	++	++	++	++		LEC T
		5×0	0.2cc +	-V0.2cc	++	++	++	++	++		陰性
		10×	0.2cc +	-V0.2cc	++	++	++	++	++		127 1-1
		5×	0.2cc+	-V0.2cc	++	++	++	++	++	. /	陰性
		10×	0.2cc+	-V0.2cc	++	++	++	++	++		12/14
		5×	0.2cc+	-V0.2cc	++	++	++	++	++		陰性
		10×	0.2cc+	-V0.2cc	++	++	++	++	++		127,131
ĺ		5×	0.2cc+	-V0.2cc	++	++	+	+	+		陰性
		10×	0.2cc+	-V0.2cc	++	++	+	+	+		12/14
		5×	0.2cc+	-V0.2cc	++	++	++	++	++	/	陰性
		10×	0.2cc+	-V0.2cc	++	++	++	++	++		12 12
		5×	0.2cc+	- V0.2cc	++	++	++	++	++		陰性
		10×	0.2cc+	-V0.2cc	++	++	1++	++	++	-	عدر کار
對	双坡面油	5×	0.2cc-	- V0.2cc							陽性
照	免疫血清	10×	0.2cc-	-V0.2cc							

第 五 表 七日熱 パイフェル氏反應 (海狽)

	CHARLES AND ADDRESS OF		ACRES AND STREET	CONTRACTOR OF THE PARTY OF THE	腹	腔治	友 所	見		心血	培養	
患者名	稀	釋	度						O Anti-		24	結果
			ļ	30	1時	1.30時	2時	6時	24時	時間	時間	
	5×1	.0cc + V	71.0cc	土	土	土					_	3
	5×1	.0cc + V	71.0cc	+	+	+	+	+	+	+	+	陰性
	5×1	0cc + V	71.0cc	+	+	+	+	+	+	+	+	陰性
	5×1	.0cc + 1	71.0cc		_			-	_	-		陽性
	5×1	$.0cc + \sqrt{1}$	71.0cc	+	+	+	+	+	+	+	+	陰性
	5×1	.0cc + V	71.0cc	+	+	+	+	+	+	+	+	陰性
	5×1	0cc+1	71.0cc	+	+	+	+	+	+	+	+	陰性
	5×1	0cc+1	71.0cc	+	+	+	+	+	+	+	_	陰性
	5×1	.0cc+V	/1.0cc	+	+	+	+	+	+	+	+	陰性
	5×1	.0cc + V	/1.0cc	+	+	+	+	+	+	+	+	陰性
免疫血清	5×1	1.0cc+	V1.0cc	Ī -	-	1 -	_	-	_	-	_	陽性
											-	

		七日款	~1_/_	x 10 14/	义,)员	マリス」	****		A. 18 20 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
患者名	稀	釋 度		腹	腔剂	友 所	見		結果
心石中	Aub	作 及	30	1時	1.30時	2時	6時	24時	和未
	5×0	.2cc + V0.2c	c 	 	+++	+++	##		PA III
	10×0	.2cc + V0.2c	c ++	++	++	++	++		陰性
	5×0	.2cc + V0.2c	c	++	++	++	++	1 /	PA del.
	10×0	.2cc + V0.2c	c ++	++	++	++	++	/	陰性
	5×0	.2cc + V0.2c	c ++	++	++	++	++		70 M
	10×0	.2cc + V0.2c	c ++	++	++	++	++	/	陰性
	5×0	.2cc + V0.2c	c III	##	+++	##	+++		770 14
	10×0	.2cc + V0.2c	c III	##	+++	##	##		陰性
	5×0	.2cc + V0.2cc	c III	+++	111	† 	##	,	
	10×0	.2cc + V0.2cc	c III	+++	+++	##	+++	. /	陰性
	5×0	.2cc + V0.2cc	c ++	++	++	++	++		PA 14
	10×0	.2cc + V0.2cc	c ++	++	++	++	++	/	陰性
	5×0	.2cc + V0.2cc	c ++	++	++	++	++	,	70.14
	10×0	.2cc + V0.2cc	c H	++	++	††	++		陰性
	5×0	.2cc + V0.2cc	c III	+++	+++	##	##		PA 14
	10×0	.2cc + V0.2cc	c III	##	+++	+++	+++		陰性
	5×0	.2cc + V0.2cc	c (+	++	++	++	++		**
	10×0	.2cc + V0.2cc	: ++	++	++	++	++		陰性
	5×0	.2cc + V0.2cc	2 ++	++	++	++	++		

第 六 表 七日熱 パイフェル氏反應 「マウス」

するを認め培養の結果も明かに「レプト ざるも海猽を使用したるパ氏現象に於て の如し。 を認めず卽ちバ氏反應陽性の成績を得た 等「レプト」屬に依る 疾患とは 考へられ 度なり。 「マウス」に對しては 甚だ 弱く るものあり、 疫A型「レプト」には二、三反應を起した ワイル「レプト」は全く反應陰性なるに秋 復期患者血淸さの關係を詳細に點見する 復期患者血淸一○例この発疫反應は別表 至四十八時間にて「レプト」は消失する程 に何れも発疫反應陰性と鰤定し得べく是 ○•五竓を腹腔内に 注射すれば 二十四乃 一時間乃至六時間の間に「レプト」の死滅 然し乍ら之を「マウス」を用ひたるい 以上三種の「レプト」と土佐熱恢 此の七日熱「レプト」と土佐熱恢 即ち一〇例中三例 には弱く反應し一時間 同じ 培養

++

++

++

++

++

 $10\times0.2\text{cc}+V0.2\text{cc}$

 $5 \times 0.2 \text{cc} + \text{V} 0.2 \text{cc}$

 $10\times0.2cc+V0.2cc$

免疫血清

ことなき程度のものなり。

陰性

陽性

ても亦二例に於て認められたり卽ち、 氏反應に於ては全く陰性なるを認め海猽を用ひて行へるバ氏反應の不確實性を示したり。之こ同じ例は七日熱に於 の七日熱「レプト」に作用せりご發表せるは恐らく此の實驗根據に依るものにして決して誤謬ならざるべしご雖も若 者血清にも秋疫A型、七日熱「レプト」を溶解する類屬溶菌現象の起ることあるを認め先年井戸氏が土佐熱患者血清 作用する所を見ればその不確實性を認むるに充分なりとす。卽ち本法は五倍乃至一○倍の血淸を用ひては土佐熱患 るも之ぜ「マウス」を用ひて行へば全く陰性にして關係なし殊に、 し當時秋疫A型「レプト」の發見ありせば又之れにも作用し、土佐熱は七日熱こ秋疫との兩病原の混在に依ると言は は實施三○分にして全く溶解死滅し以つて陽性の反應を呈す の如きは秋疫A型にら七日熱にも

嬉に於て余は海猽による五倍乃至十倍の稀釋度に依る、パ氏反應は病原確定の免疫反應として不適當なるを知り、 「マウス」を用ふるバ氏反應の確實なるを認め常に罹者の併行實驗を希望するものなり。

ざるを得ざる誤謬に至りしならん。

らざることは血凊の稀釋度を二○倍以上に高める時は海猽を使用するも反應なきに比し臨牀上秋疫A型症、 尙此の患者()は秋疫A型、七日熱等に置患したるこさなく秋疫A型症、 七日熱症 七日熱

0)

4 表

リーケンベルグ氏反應

						患者名	
4日3	殃	11 1 A	H 7	, 恢	1 A	「レプ・時間)	稀釋)
熱	A	7	熱	Α	7	標置	凝
1	١	1	1	1	1	30	ა ×
1	1	١	1	1	1	1時	
1	1	1	1	1	1	30 1時 30 1 30 1	10
i	1	١	١	1	1	د م	, î
1	ı	١	1	ļ	1	30	80
1	ı	ı	1	1	١	<u>н</u>	×
1	ı	1	1	ı	1	30	× 40×
1		ı	1	1	I	-	×
1	1	1	1	i	1	30	80
1	1	1	1	1	ı		80×
1	1	1	1	1	i	30	80× 160×
1	1	1	1	1		دسو إ	160×
1	1	1	1	1	1	30 1 30 1 30 1 30 1 30 1 30	స్ట
1	1	1	1		1	1	320×
1	1	1	1		1	30	
ı	1	1	1	1	1	-	640×
1	l i	1	1	1	1	30	F)
1	1	1	1	1		<u> </u>	1280×
				1	孤	潜	ì
ä	:	3	.,	=	H	 	3
Nemente			The second	\		*	¥
	`					1	}

下村=『土佐熱』に關する研究

五一

下村=『土佐熱』に關する研究

	(10000000000000000000000000000000000000	i ni me		(1				-	-				-	orec seas					,		~~~	<u> </u>	a recognition	
爺							The Property of the Parks									Total Control of the						-					
** おまままな でんしょう こうしょう はん はんばん はん こういん のが 日本 は 中華 ない こういん かん はん	4	类	B	4	类	A	4	类	Д	4	类	Й	4	类	A	4	类	Ā	4	类	Q	ct	类	Q	4	类	A
1		1	1	1H	_	12			1	III.	_	1	1111 2-1654		7	2104		1	-1H		1	111		1	H		7
2	憋	A	7	熱	P	7	熱	A	7	熟	A	7	熟	A	7	灣	A	7	換	A	7	漤	A	7	熱	A	7
2,2	+	+	#	1	1	1	1	1	1	1	1	١	1	1	1	1	١	i	١	1	1	1	1	I	١	1	1
To Market	+	+	+	1	1	i	1	1	1	1	1	١	i	1	١	1	ı	1	l	ı	١	1	1	١	1	1	١
N. Handberg and	#	#	#	, 1	1	1	1	1	1	1	ı	١	ı	ł	1	1	١	1	1	1	1	1	1	١	1	1	1
)	+	+	#	1	1	1	1	ı	١	1	1	ł	1	1	1	1	1	1	i	١	1	1	ı	ı	1	i	ı
	#	#	#	1	1	1	1	١	1	1	1	1	1	١	1	1	1	ı	ı	1	1	1	ı	I	ı	1	ı
	+	+	+	ı	1	1	1	1	1	ı	١	ı	ı	ı	1	١	i	1	ı	١	1	ī	١	1	1	1	ı
*	#	#	#	١	1	1	ı	ı	i	ı	1	١	1	1	1	1	1	1	1	١	1	1	ı	١	1	1	1
	+	+	#	ı	ı	1	ı	ı	1	ı	١	1	1	1	ı	ı	١	1	ı	1	1		1	ı	1	1	ı
	+	+	#	1	1	1	ı	1	1	1	1	1	1	1	1	ı	1	ī	1	ı	1	1	1	1	1	1	1
- 1	+	+	+		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	
ı	+	+	#	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	·	1	1	1	1	
9	-	1+	+	1	1		1	1	1	1	1	· 	1	1	· 1	1	1	1	1	1	<u>.</u>		1	· -	1	1	1
-		i+	+	1	1	· 	1	,	· 	1	1	· 		1	<u>'</u>		1	1	· 	1		, i	1	1	1	1	1
ı	1	1	+	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	<u>'</u> 	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
-			+	1	1	1	ı	1	1	1	<u> </u>	1	1	1	<u> </u>	1	1	1	1	1	-	1			1		1
		1												- 1							-		1	-			1
- 1	-1		+	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	-	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	
1	1		-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1
-	1		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Ī	記	疆	赐	:	:	3	2	:	:	:	=		;	:	:	=	:		:	=	:	=	,	:	3	3	郦
T	4	和	往					-				-		-						1	_						和
					\			\			\			\			\			\	1		\			\	-
L				-				and the latest section in		- Mariana de la composición dela composición de la composición dela composición de la composición de l				-									e-returning		of the second	******	

_

63

下村=『土佐熱』に關する研究

症の眞正症は五○倍一○○倍に稀釋せる血清を用ふるもよく反應するにより言ひ得べし。

次で余は念の為め以上三種の「レプト」に對しリーケンベルグ氏帶荷現象を行ひたるに其結果は 左表の如くよく「マ

ウス」のパイフェル氏現象に一致し全く反應なきを知りたり。

即ち高知市の土佐熱恢復期患者血淸は旣知「レプト」、ワイル、秋疫A型、 七日熱、「フォブリーリス」、水中「レプト

等に反應なきを知りたり。

第五章 高知市及附近に流行するワイル氏病不全型患者血清と既知

レプト」との発疫反應に就て

b 。 流行地域と地理的に全く一致するも患者の疫學的並びに臨牀的所見は全く異なるを論じたりしが其不全型のものに 以上記述せる如く高知市に流行する土佐熱恢復期患者血淸は旣知病原「レプト」ご何等発疫反應を呈せざるを知り 到りては確然たる區別を困難さする場合あるのみならず未だ高知市にワイル氏病以外の「レプト」病の發生せる報告 る他當市に於て地方病的に毎年發生するワイル氏病患者の余の診を乞ふ者は一ヶ年平均一三名を算し何れも土佐 ありし を知らざるが故に不全型ワイル症の旣知「レプト」さの關係を知るも亦興味多き所さして茲に實驗に著手した 72

採血せる患者は自己診斷のもの六名と地理的に秋疫好發生地と目ざされたる香美郡山田町より團野氏の送られ 球結膜充血等は輕微なるを普通ごして文獻に依る秋疫A型症、 缺如し或は高熱を以つて却つて淋巴腺腫大の蓍しきものあるも黄疸及出血を認めず咽頭症狀、 余がこゝにワイル氏病の不全型と稱するは定型的ワイル氏病と異なりて概して特有症狀著明ならず時に一 七日熱症と近似するものなり。 筋痛、 步行困難 部 症狀を なる 眼

二名を加へ合計八例にして發病より採血に到る日數及簡單なる病症を例記せば左表の如く多くは黄疸、 し或は輕度に現はれて不全型ワイル症と診斷するを得るものなり。

出血

を缺如

採

血

迄

H

數

年三ケト

一ケ年

二ヶ月

十三日

ケ月

下村=『土佐熱』に 關する研

(「レプト」の毒力等は前實驗と等しき注意の下に行ひたる!へるはが氏反應(海猽、「マウス」)及びリーケンベルグ氏	
---	--

に其成績は別表の如く、 の三例 は秋疫A型に反應するを認 め たる他

ものは皆無なりき。 **殘餘五例の血淸は總てワイル「レプト」に反應し七日熱「レプト」に反應せる**

+ + + + 第二例 呈し、 斷定するを得たり。 なりしも「マウス」を使用せるバ氏反應に於ては一時間後秋疫A型「レプト」 六○倍の稀釋度に於ても著明に帶荷現象現はれ確然たる秋疫A型症血淸 海猽使用のバ氏反應に於てはワイル、 はり氏反應に於てはワイル「レプト」に八○倍迄陽性反 秋疫A型に反應して區別不能 (應を

ものなり。

八

淋 筋 黄 出 肝 步

腺

腫

大 痛 疸 血 大 難 ス

++

+

は全く溶解するを認めたり之れにより大體秋疫A型症ならんで推論し

表

第

球結膜 巴

充血

+ + +

++

+ ## +

++ ++ + +

++ + +

++

ワイル不全型症候表

行

+

+ +

臟

腫 困

+

+

+ + +

++ +

+

發

病

月

Н

8. 8.17

8. 8.25

8.10.10

8.11. 1

8.11.20

9. 8. 4

9. 9.25

卽ち第

一例

は海獏「マウス」兩者共全~陽性に反應しり

氏反

應

は

9.25

骨へ

ıν

re

採

血

月

H

9.11. 8

9.10. 2

9.11.

9.11. 2

9.10.16

9.10. 4

9.10.

9.10. 6

月 九 第三例 迄弱度の陽性反應を現せり。 ト」は一時間後全く溶解し、又リ氏反應は秋疫A型「レプト」に强く現はれ八 ト」に反應せしも「マウス」を 用ひたるパ氏反應 にありては ○倍迄陽性反應を呈したり、 は海猽使用バ氏反應に於てはワイル及び 秋疫A型兩「レ **之れに依りて本例の如きは、「マウス」使用** 然るに更にワイル「レプト」に對しても四○倍 秋疫A型「レ プ

五 四

++

發

熱 狀

+ ++ ++

++

++ + + ++ +

咽 眼

頭

症

流

行

時

期

月

月 +

月 ₩

八 月 +++

+ 月

+ -月

八 月 ##

九

患

者

名

氏反應とリ氏反應の結果よりして秋疫A型症と言ふを得べし。

然し乍ら第二及第三例は確定的のものさ言ひ難し。依りて此の三者の臨牀上の所見を茲に略記するに左の如し。

第一例 男

發病地

漁業

及壓痛あることに氣付きたりと言ふ。 發病は惡寒 を以つて始まり頭痛、全身筋痛を主訴と 心翌日は左股腺の腫大

痛 狀輕快し七日目に到るも黃疸及び出血を認めずして比較的早く全治せり。 は弱く、肝臓は乳腺上弓下一横指に腫大も壓痛輕度なり、四日目以後は諸症 に著明なり、左股腺腫大は拇指頭大にて壓痛あり、歩行困難ありて腱反射 初診は發病三日目の 午後三時にて 體溫三九・九分、脈搏百至緊張あり、 全身筋痛甚もく咽頭發赤、眼球結膜充血は中等度にして特に眼裂の所 頭

十六歲

發病地

第二例

發病 悪寒と同時に頭痛ありしも其日は就床せず、翌朝發熱し頭痛ありし

と言ふ。

ħ は輕く唯腓腸筋が特に疼痛を感じ咽頭症狀なく、眼球結膜充血は微に現は 初診は發病五日目の午前九時にて患者は 步行して 外來せり、 倦怠あり特に下肢に甚もく 倦怠を覺へ、 步行は稍~困難なりと 言ひ筋痛 左股腺は指頭大に腫大心壓痛あり、肝臓は弓下凡二横指に腫大し微に 全身

第三例

壓痛あり黄疸、出血は經過中之れを認めず。

發病地

も地理的に土地高燥にして水田淺く変學的には秋疫流行地に近似せり 本例は自己診斷の患者にあらざるを以つて 臨床上の 所見は 明かならざる

學的差異も稍~認め得べく未だ病原の分離を得ざる今日俄に斷定は困難なれども高知市及附近にも秋疫A型症に屬 あるを認めたり。殊に第三例の如きは地理的見地よりしてワイル氏病發生地に比し乾燥地方に有りさ言ふ從來の疫 しても判定に苦しむ個所あり。之れを神品、 以上の如く第一、第二例に於ては一般症狀輕微にして全經過短かく、黃疸及出血を全く缺如し不全型ワイル氏病と 鹽澤、北山氏等の靜岡縣の秋疫症の臨牀所見と對比するに稍~近似點

する患者の存在すべきここを知るものなり。

以上實驗の結果ワイル氏病患者血淸は發病後一年三ケ月間に於てもリ氏反應最低四○倍より三二○倍に

應陽性を呈し、 秋疫A型症に於ては一年一ヶ月の間は一六○倍の反應陽性を示すを見たり。

下村=『土佐熱』に關する研究

65

五五五

到る間に反

	「レプト」		autim2			腹	腔剂	医 川	見		心皿	培養				
患者名	種類	稀	釋	度	30	1時	1.30 時	2時	6 時	24時	6 時間	24 時間	結	果	決	定
	ワイル		1 cc + V 1 cc + V		=	=	_	=	=	=	=		陽	性		
1	秋、A	$5 \times$	1 cc + V	1 cc	_	=	_	_	_	=	=	_	陽	性	不	明
	し日樹		$\frac{1 \text{ cc} + \text{V}}{1 \text{ cc} + \text{V}}$		##	##	##	##	+++	##	+	+	陰	性		
	七日熱		$\frac{1 \text{ cc} + \text{V}}{1 \text{ cc} + \text{V}}$		##	##	##	##	#	##	+	+	1/23	1-1-		
	ワイル		1 cc + V		_	_	_	_	=	_	=	_	陽	性		
ı	秋、A		$\frac{1 \text{ cc} + \text{V}}{1 \text{ cc} + \text{V}}$		## ##	##	## ##	## ##	## ##	 	++	+++++++++++++++++++++++++++++++++++++++	陰	性	ワイ	ル
	七日熱	5×	1 cc + V	1 cc	+++	+++	##	+++	111	+++	+	+	陰	性		
			$\frac{1 \text{ cc} + \text{V}}{1 \text{ cc} + \text{V}}$		++	+++	++	+++	 	++	++	++		,h/I-		
	ワイル		$\frac{1 \text{ cc} + \text{V}}{1 \text{ cc} + \text{V}}$		##	##	##	##	##	##	+	+	陰	性		
	秋、A		$\frac{1 \text{ cc} + \text{V}}{1 \text{ cc} + \text{V}}$		+	=	_	_	=	_		_	陽	性	秋疫	4型
	七日熱		$\frac{1 \text{ cc} + \text{V}}{1 \text{ cc} + \text{V}}$		##	 	 	 	##	##	++	+ +	陰	性		
	ワイル	5×	1 cc + V	1 cc	=	_	_	_	=	=	=	_	陽	性		
			$\frac{1 \text{ cc} + \text{V}}{1 \text{ cc} + \text{V}}$		-	<u>-</u> ++	<u>-</u>	++	++	++	<u>-</u> +	<u>-</u> +				
	秋、A		1 cc + V		##	##	##	##	##	##	+	+	陰	性	ワイ	ル
	七日熱		$\frac{1 \text{ cc} + \text{V}}{1 \text{ cc} + \text{V}}$		 	##	##	##	 	##	+	++	陰	性		
	ワイル		1 cc + V 1 cc + V		=	=	=	_	_	=	_	_	陽	性		
	秋、A	$5 \times$	1 cc + V	1 cc	_	=	E	Ξ		_	=	_	陽	性	不	明
			$\frac{1 \text{ cc} + \text{V}}{1 \text{ cc} + \text{V}}$					 +++	++	++	+	+				/-
	七日熱	l	$\frac{1 \text{ cc} + \text{V}}{1 \text{ cc} + \text{V}}$		##	##	##	##	++	++	+	+	陰	性	-	
	ワイル	10×	1 cc + V	1 cc		_	=	=	=	=			陽	性		
Ç.	秋、A		$\frac{1 \text{ cc} + \text{V}}{1 \text{ cc} + \text{V}}$		+++	+++ +++	##	## ##	+++	+++	++	++++	陰	性	ワイ	ル
	七日熱	5×	1 cc + V	1 cc	##	+++	+++	+++	##	+++	+	+	陰	性		
			$\frac{1 \text{ cc} + \text{V}}{1 \text{ cc} + \text{V}}$				-	-	-	-	+	+			-	
	ワイル	l	$\frac{1 \text{ cc} + \text{V}}{1 \text{ cc} + \text{V}}$		-	-	-			-		-	陽	性	-	
	秋、A	I	$\frac{1 \text{ cc} + \text{ V}}{1 \text{ cc} + \text{ V}}$		+++	 	##	##	##	+++	+++	+++	陰	性	ワイ	ıν

海猽 パイフェル氏反應

腹腔液所見

心血培養

九表

五一六

	[((·		([1	
1	七日熱	$5 \times 1 \text{ cc} + \text{V} 1 \text{ cc}$	+++	HH	##	HH	##	+++	+	+	陰	性		
	-C 11 m?	$10 \times 1 \text{ cc} + \text{V} 1 \text{ cc}$	+++	+++	###	###	##	##	+	+	医	13.		
	ワイル	$5 \times 1 \text{ cc} + \text{V } 1 \text{ cc}$	_	_	_	_	_	_	_	_	陽	性		
	9110	$10 \times 1 \text{ cc} + \text{V } 1 \text{ cc}$	_	_	_	_	_	_	_	_	1993	7.1.		
1 .	秋、A	$5 \times 1 \text{ cc} + \text{V } 1 \text{ cc}$	_	_	_	_	_	_	_		陽	144-	7	un
1	10. A	$10 \times 1 \text{ cc} + \text{V } 1 \text{ cc}$		_		_	_	_	_		1999	性	不	明
	七日熱	$5 \times 1 \text{ cc} + \text{V } 1 \text{ cc}$	+++	+++	ĦĦ	Ħ	##	+++	+	+	p/A	Ast.		
	七日於	$10 \times 1 \text{ cc} + \text{V } 1 \text{ cc}$	+++	ttt	Ħ	†††	Ħ	+++	+	+	陰	性		
	ワイル	$5 \times 1 \text{ cc} + \text{V } 1 \text{ cc}$	_	_	_	_	_	_	_		陽	dela		
I	9 1 10	$10 \times 1 \text{ cc} + \text{V } 1 \text{ cc}$	_	_	_	_	_	_	_	_	155	性		
	Fil A	$5 \times 1 \text{ cc} + \text{V } 1 \text{ cc}$	_	_	_			_	_		78	dut		
	秋、A	$10 \times 1 \text{ cc} + \text{V } 1 \text{ cc}$	_	_	_	_		_	_		陽	性		
1	1.11 ##	5×1 cc+V 1 cc	_	_		_		_	_	_	เกล์	det.		
	七日熱	$10 \times 1 \text{ cc} + \text{V } 1 \text{ cc}$	_			_	_	_	_		陽	性		

備考 對照にはそれぞれ「レプト」の家兎免疫血清を用ひたり

第	 表	「マウス」	パイ	フ	ェル氏反應

Talanda an Timag Pangal						腹	腔浴	夜 所	見.				1 -
患者名	「レプト」 種 類	稀	釋	度	30					24時	結	果	決 定
	1 77 7 11/	10×0	.2cc+1	70.2cc	<u> </u>	_	-	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	陽	hel-	ĺ
	ワイル	20×0	$1.2cc + \sqrt{1}$	70.2cc	+	_	_	_	_	_	汤	性	
	THE A	10×0	0.2cc + V	70.2cc	+	+	+	+	+	+	P 今	性	フィル
	秋、A	20×0	$\frac{1}{2cc+1}$	70.2cc	++	++	++	+	+	+	陰	狂	V 1 /1
	1.11 ##	10×0	0.2cc + V	70.2cc	+++	111	ttt	ttt	+++	† 	E.	del.	
	七日熱	20×0	.2cc +	70.2cc	+++	+++	##	+++	+++	+++	陰	性	
	7	5×0	$\frac{1}{2}$ cc + $\sqrt{2}$	70.2cc	_	_	_	_	_	_	1713	Ad.	
	ワイル	10×0	.2cc + V	70.2cc	_	_	_	<u>-</u>	_	_	陽	性	
	Tile A	5×0	.2cc + V	70.2cc	Ħ	##	##	##	##	##	17.	Ad.	P
	秋、A 七日熱	10×0	.2cc + V	70.2cc	+++	##	##	HH	##	+++	陰	性	ワイノ
		5×0	.2cc + V	70.2cc	##	##	##	##	##	##	PA.	del.	
		10×0	.2cc + V	70.2cc	##	+++	##	##	+++	##	陰	性	
		5×0	.2cc + V	70.2cc	† 	+++	+++	HH	##	+++	PA.	Ad.	
	ワイル	10×0	.2cc + V	70.2cc	ĦĦ	##	##	HH	+++	##	陰	性	
	TI. 4	5×0	.2cc + V	70.2cc	_	_			_	_		4.1	Thurston A
	秋、A	10×0	.2cc + V	70.2cc	_	_			_	_	陽	性	秋疫 A
		5×0	.2cc + V	70.2cc	##	##	+++	+++	+++	+++	PA.	Ad.	
-11	七日熱	10×0	.2cc + V	70.2cc	+++	##	##	+++	ĦĦ	##	陰	性	
ワイ		5×0	.2cc + V	70.2cc	_	_	_	_	_	_	re r	ihela	
	ワイル	10×0	.2cc + V	0.2cc	_	_	_		_	_	陽	性	
	-01.	5×0	.2cc + V	0.2cc	+++	##	##	##	+++	+++	rA.	del.	,,,
	秋、A	10×0	$\frac{1}{2 \text{cc} + \text{V}}$	70.2cc	+++	##	##	##	##	+++	陰	性	ワイル
		$\overline{5 \times 0}$.2cc + V	0.2cc	+++	+++		+++	##	Ħ			
	七日熱	$\overline{10\times0}$	$\frac{1}{2cc+v}$	0.2cc	+++	##	+++	+++	##	##	陰	性	

				1								
	ワイル	$10\times0.2\mathrm{cc}+\mathrm{V}0.2\mathrm{cc}$	+	+	+	陰	性					
-	9 1 10	$20\times0.2cc+V0.2cc$	++	+	+	+	+	+	医	江		
	Tale A	$10 \times 0.2 \text{cc} + \text{V} 0.2 \text{cc}$	+		_	_	_		RB	,lul-	秋疫A型	
Ì	秋、A	$20\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	+	_	_	-			陽	性	M及A至	
	I. m skile	$10\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	+++	111	##	##	+++	+++	17.0	Ad.		
	七日熱	$20\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	+++	111	+++	+++	##	+++	陰	性		
	- · · · ·	$5\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	_	_	_	_			713	Arl.		
	ワイル	$10\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	_	_	_				陽	性		
1	T1. A	$5\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	##	+++	##	+++	+++	##	#A	d.at.		
	秋、A	$10\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	##	+++	##	+++	###	111	陰	性	ワイル	
	t rt skå	$5\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	+++	##	+++	+++	+++	+++	70	Jal.		
	七日熱	$10\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	##	+++	+++	111	+++	+++	陰	性		
	ワイル	$5 \times 0.2 \text{cc} + \text{V}0.2 \text{cc}$		_	_	_		_	PH			
		$10\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	_	_		-	_	_	陽	性		
1	秋、A	$5\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	##	+++	##	+++	+++	##	77	A.er.		
		$10\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	##	##	+++	+++	##	##	陰	性	ワイル	
	七日熱	$5\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	##	HH	+++	+++	##	+++	PA.	A.d.		
		$10\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	##	+++	##	111	+++	Ħ	陰	性		
	77.34	$40\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	##	+++	+	+	+	+	72	Ad.		
	ワイル	$160\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	##	++	+	+	+	+	陰	性		
1	秋、A	$40\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	+	-	_	_	_	_	176	ihela	Talenta: A Hal	
1	17. A	$160\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	+	_	_	_	_	-	陽	性	秋疫A型	
	1. 11 表力	$40\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	+++	+++	+++	##	##	+++	PΑ	M.		
1	七日熱	$160\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	+++	+++	Hi	+++	+++	+++	陰	性		
	n 2 34	$5\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	_	_	_	-	_	_	78	Jul.		
	ワイル	$10 \times 0.2 \text{cc} + \text{V}0.2 \text{cc}$	_	_	_	_	_	_	陽	性		
	秋、A	$5\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	_	_	-	_	_	-	79	J.d.		
		$10\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	-	-	_	-	_	-	陽	性		
	しい日本が	$5\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	_	-	_	_	_	-	79	44		
	七日熱	$10\times0.2\text{cc} + \text{V}0.2\text{cc}$	_	_			_	陽	性			

備考 對照にはそれぞれ「レプト」の家兎免疫血清を用ひたり

第十一表 リーケンベルグ氏反應

カー & <u>サックス</u> (大)歴																									
	稀	釋			×	10	×	20)×	40)×	80	×	1	× 60		× 20	6	$\frac{\times}{40}$	12	$\overset{ imes}{80}$				
患者名	/レプト」種	*音	時間	30	1時	30		30		30		30		30		30		30		30		結	果	決	定
	ト」作	利	ル	++	+1	+	+	+++	++	++	++	111	++	+	+	+		+	+	_		陽	性		
	秋、		- A		_	÷	Ė	_		_	<u> </u>	_	<u>:</u>	Ė	-	$\dot{=}$	_		=			陰	性	ワイ	コレ
	七	日	熱		_	_	=	_	=	=	_	=	_	_		_	=	_	_	_		陰	性	/ 1	,•
	ワ	1	<i>IV</i>	++	+	##	++	+++	++	+	士	士	_	=	_	_		_	=			陽	性		
	秋、		A	土	_	_	=	士	_	士	_	_	_	_	_	_	_	_	_	=		陰	性	ワイ	ル
	七	H	熱	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	=	_	_	_	=	=	陰	性		
-	ワ	1	ル	=	_	_	_	_	_	_	_	_	_	=	=			=	_	=	=	陰	性		

五一八

秋、

七 H

ワ

秋、

七 H 熱

ワ 1 ル

秋、

七 H

ワ オ ル

秋、

七

ワ 1 ル

秋、

七 H 熱

ワ 1 ル

秋、

七 H 熱

ワ

秋、

備考

1

H

Α

埶

ル

Α

Α

熱

A

A

A

ル

A

熱

日熱

+ ++++

=+

+

_ +

+ ±

+

+ +++ ++ +++ ++ ++ +++ +++ ++

++++++++++++

++ + ++ +++ ++ ++

對照にはそれぞれ「レプト」の家兎免疫血清を用ひたり

を知りたり。

+

±

 \pm

--+++

+ 士

知れ

. ا

		ワワ	1	n n A	
	生 生	tioに丘水患者忽文IT)三利)を基句弦	は昭利四年以降后力年十二月に至る		

秋、A

ワイル

ワイル

陽

陰 性

陽 性

陰 性

陰 性

陽 性

陰 性

陰 性

陽 性

陰 性

陰 性

陽 性

陰 性

陰 性

陽 性

陰 性

陽 性

陽 性

陽 性

性

點多くして唯男女別に於て鏡熱が男二•二に 對し 女一な により左の結論を得たり。 るに反し土佐熱は男一•一に對し女一の 比を 見るここを 本病は熊本に於ける鏡熱とはよく近似し彼我に一

致

を認めたり。 パイフェ ル氏腺熱さは患者發生の年齢的に 差違ある

期(就床期)第三期恢復期と假に名づけ三期に分類し得る 余は臨牀上の所見よりして疾患の時 期を第 期 第二

一種に大別し得らるゝこさを知りたり。 本病の有熱期間を經過により二週間 型 三週間 型の

せざることを知りたり。 土佐熱恢復期患者血清は旣知「レプトスピラ」に反 本病には未だ嘗て口唇「ヘルペス」を認めず。

應

(但し海猽を實驗動物としてパ氏反應を 行なふ 場合には

下村=「土佐熱」に關する研究

第六章 結 諭

近に發

觀察

五一九

70

秋疫A型、七日熱等の「レプトスピラ」に對して五倍乃至一〇倍の患者血淸の稀釋度に於て反應あるが如き結果を得 るこさあるも新家氏法により「マウス」を用ふる時は判然陰性成績を認め得たり)。

五二〇

高知市及附近のワイル氏病流行地に秋疫A型症の存在することを血清學的に證明し得たり。

稿を擱くにあたり御懇篤なる御指導と御校閱とを賜はりし高木教授に深甚の謝意を表し、傳染病研究所第八細菌室の諸氏の御助力殊に福嶋學兄の御

文

援助た深謝す。

第 22 卷(1932) 4)小嶋(三郎), 八代町地方に於ける(鏡熱)の系統的並に疫學的研究, 熊本醫學會雜誌, 第 9 卷, 第12號(昭和 8, 12) 5)井上,リ 日本傳染病學會雜誌,第1卷,第7號(昭和2,4)3)鈴江,本邦に於ける流行性腺熱(鏡熱)に就て,特に其地理的病理學的研究,日本病理學會雜誌 1) 明石, 鏡熱(流行性腺熱)に就て,日本傳染病學會雜誌,第1卷,第5號(昭和2,2) 2) 小嶋,金山, 高知縣に流行する一種の不明熱性病に就て, ピロ〜ータ」に就て、東京醫事新誌, 第2052號(大正6) 8)鳥居,雨森,波佐見熱に就て、日本傳染病學會雜誌,第7卷,第4號(昭和8,1) ーケンベルグ現象知見補遺. 6) 神品, 鹽澤, 北山, 秋疫の症狀に就て, 東京醫學會雜誌, 第 37卷(大正 12) 7) 井戸, 伊藤, 和邇, 七日熱病原「ス